



「簡単に利用できて、セキュリティの高い、手ごろな価格の製品を探していました。InterSafe SecureDeviceが保険としてあるので、安心してデータを扱えます」

富津市教育委員会 教育部庶務課 課長 磯貝睦美氏(写真左)と同教育センター 指導主事 須藤秀明氏(写真右)に、アルプス システム インテグレーションのInterSafe SecureDeviceへの評価について、詳しくお聞きしました。

### 富津市について

富津市は、房総半島の東京湾側南に位置し、海水浴場、鹿野山や鋸山など、海や山に囲まれた自然豊かな街で、東京湾に突出した富津岬は、南房総国定公園の一部にもなっています。また、飯野陣屋跡や千葉県最大の内裏塚古墳を中心とした古墳群など、史跡や文化財も多く存在しています。

富津市では、5年に一度、基本計画である「いきいき富津5か年プラン」を定め、教育施設や特産物の販売施設などの整備や企業誘致などに努めています。



富津市おもてなしキャラクター「ふつつん」



「学校外では、持ち出したデータを使っても印刷できない設定にしています」と磯貝氏は語る。



### 市内の全小中学校へ、情報漏洩防止のために導入

—現在、InterSafe SecureDeviceをどのように利用されていますか。

2010年2月末より、富津市内の小中学校17校全てにおいて、USBメモリのセキュリティ対策のためにInterSafe SecureDeviceを利用しています。

—導入の経緯についてお聞かせ下さい。

教職員は、パソコンにて、生徒の実力分析のためにテスト結果を統計化したり、通知表の基礎データを作成したりしています。学校で完成させるのが難しい場合は、データをUSBメモリで持ち帰り、自宅で作業をしていました。

データの持ち出しにあたっては、USBメモリには暗号化ソフトでパスワードをかけ、紛失や盗難時に個人情報が漏洩しないようにしていましたが、ソフトは各学校が個別に選定しており、暗号強度にバラツキがありました。また、学校によってセキュリティへの取り組みに温度差があり、同じ学校内でも教職員によって、セキュリティ意識の差がありました。

そういった中、新聞などでは、暗号化ソフトのパスワードが破られて情報が流出した事件についての報道がなされており、近隣の学校でも、個人情報が漏洩するといった事故が発生していました。富津市ではそのような事態が発生しないよう、全

学校を対象に、強固なセキュリティ対策を統一的にやりたいと考えていました。

また、情報が漏洩してしまうと、担当の教職員が処分の対象になる場合もあります。教職員個人に、そのようなリスクを一方的に負わせないためにも、セキュリティを高める必要がありました。

そこで富津市内の小中学校で、教職員用のノートパソコンを整備することになり、その整備事業の一環として、セキュリティをより強固なものとするために、USBメモリのセキュリティ化製品を導入することにしました。

### 持ち出し禁止では、教職員に過度の負担が

—情報漏洩を防ぐためには、持ち出し禁止にするのが最も簡単ではありませんか。

データの持ち出しをしなくてすむようにすることが理想です。しかし、そう簡単にいかないのが学校の実情です。

データの持ち出しを禁止すると、夜遅くまでの残業や休日出勤を強いることになり、教職員に過度の負担がかかってしまうからです。データの持ち出しを禁止にして休日出勤が常態化している学校もあると聞きます。

富津市では、個人情報にかかわるデータは校外への持ち出しを原則禁止にしつつも、持ち帰りが必要な場合は、学校長の許可を得て持ち帰ることができるようにしました。データの持ち出しは、セキュリティ対策が施されたUSBメモリに限定しています。

## セキュリティ製品導入の6つの要件

一セキュリティ製品導入にあたって、どのような要件をたてましたか。

10数社の製品カタログを以下の6つの要件で比較検討しました。

### 1. USBからの情報漏洩を防止できること

学校内のセキュリティ対策は十分に行っていたので、情報漏洩が発生するとすればUSBメモリが原因となる可能性が高い。紛失・盗難などの事故やウイルス感染などの場合でも個人情報流出することを防止したい。

### 2. データのコピー・移動ができないこと

例外的にデータの持ち出しを許可する以上、学校外のパソコンにデータをコピー・移動できては情報漏洩の防止という目的を達することはできない。許可されたパソコン以外ではデータを保存できないようにすることが必須条件。

### 3. 一太郎ファイルも対象となっていること

多くの教職員はワープロソフトとして『一太郎』を使用。一太郎で作成したデータもセキュリティの対象となることが必要。

### 4. これまで使っていたUSBメモリを、そのまま利用できること

ノートパソコンの整備に予算を回したいと考えていたので、新たにUSBメモリを購入する必要がない製品を選びたい。

### 5. 簡単にUSBメモリを交換できること

USBが壊れてしまったり、容量がオーバーしてしまったときに、面倒な設定などなく、簡単にUSBメモリを交換して、利用できる製品を希望。

### 6. コストが抑えられること

予算には限りがあるので、コストを抑えつつ、セキュリティを高められ、USBメモリが故障したときも安価に交換して利用できる製品を選びたい。

最も相対的に要件を満たしていたInterSafe SecureDeviceを導入することにし、ノートパソコン整備事業の入札仕様書ではInterSafe SecureDeviceを指定しました。

一入札仕様書の作成にあたっては、どのような点に気がつけられましたか。

導入時の初期設定を全て、入札者をお願いするようにしました。教職員に設定を任せてしまうと情報システム担当の教職員に作業が集中し、日常業務に支障がでたり、初期設定をしないまま利用してしまうケースが予想されたからです。導入したからには、きちんと運用できるように、利用する全てのUSBメモリについて初期設定をしてもらいました。

## InterSafe SecureDeviceが評価できるポイント

一InterSafe SecureDeviceを評価できる点を教えてください。

教職員に負担をかけることなく、漏洩事故を防ぐことができる点です。通常、セキュリティを高めると運用が煩わしくなりますが、InterSafe SecureDeviceはそのようなことはありません。厳しいセキュリティ設定にしても作業に支障がでるという声はなく、**教職員のITスキルにかかわらず簡単に使うことができます。**

紛失・盗難の場合にも情報が流出することがないので、教育委員会・教職員とも安心できます。万が一の場合のための保険として利用しています。

## 今後の取り組み予定とALSIへの期待

一今後のセキュリティへの取り組み予定を教えてください。

ノートパソコン整備事業では、個人所有のパソコンをなくしていく予定です。また、教職員の負担が過度に増えては教育の質が低下しかねません。教職員の負担を減らしつつも、セキュリティの向上を図れるように運用していきたいと考えています。

一今後のALSIに対する期待を教えてください。

今回、InterSafe SecureDeviceを導入することで、情報漏洩のリスクを軽減することができました。富津市では、市民からの信頼確保のため、今後もさらなるセキュリティの向上を目指していく所存です。

ALSIには、今後もITスキルにかかわらず簡単に利用できる優れた製品を提供し、私たちのセキュリティ対策への取り組みを支援していただくことを希望します。



「各学校を回って、運用状況の確認をしています」と須藤氏。

富津市教育委員会



〒293-8506  
千葉県富津市下飯野2443番地  
<http://www.city.futtsu.chiba.jp/top.html>

開発・販売元



アルプスシステムインテグレーション株式会社

〒145-0067東京都大田区雪谷大塚町1-7  
TEL 03-5499-1331 FAX 03-5499-0357

●詳しい情報は <http://www.alsi.co.jp/>

※ALSI, InterSafe, InterSafe SecureDeviceはアルプスシステムインテグレーション株式会社の登録商標です。その他記載の製品名・社名は一般に各社の商標または登録商標です。

※このカタログの内容は2010年9月現在のものです。内容は予告なく変更される場合があります。

■お問い合わせ先